

へきけんニュース

【ホームページ https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/】

👉 へき地教育に関するオンデマンド研修ビデオ・資料・フォーラム等のお知らせなどが豊富に掲載されています！

✉ kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp

📞 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



背景は北海道教育大学函館校

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

北海道立教育研究所主催、北海道教育大学、北海道へき地・複式教育研究連盟共催の研修
「へき地・小規模校教育充実研修」遠隔型研修Ⅱを実施しました！

北海道立教育研究所
教育課題研究部研究研修主事 甲谷 聡枝

令和5年12月7日(木)に道立教育研究所主催、北海道教育大学、北海道へき地・複式教育研究が共催する研修講座「へき地・小規模校教育充実研修」の「遠隔型研修Ⅱ」を実施しました。

「遠隔型研修Ⅱ」は、5月に実施した「遠隔型研修Ⅰ」のへき地・小規模校教育研究センター川前副センター長、前田センター員による講義や、全道へき地複式教育研究大会の会場校である苫小牧市立樽前小学校による実践発表を踏まえ、受講者各自が設定した、小規模校における指導の課題を基にした実践報告や協議を行いました。

協議は、ブレイクアウト機能を活用して実施し、各グループには進行及び講師として、へき地・小規模校教育研究センターのセンター員やアドバイザー、へき地・複式教育研究連盟の皆様方に御協力をいただきました。

受講者からは、「へき地・小規模校教育研究センターが発行した手引を活用して校内で統一した学習環境づくりを行った」、「遠隔型研修Ⅰの講義や全道へき地複式教育研究大会に参加して得た学びを活かして職場実践を行った」等の報告があり、三者が連携したことにより、それぞれの取組が活かされ、研修による効果が高まったと感じました。

次年度以降も研修内容をより充実させ、受講者の皆様や学校に役立つよう、連携を一層深めてまいりたいと思います。



北海道立教育研究所 甲谷 聡枝 氏▲



▲実践報告・協議の様子

「へき地・小規模校教育充実研修」の意義と今後の展望

北海道教育大学函館校 学校臨床教授

へき地・小規模校教育研究センター センター員 鈴木 淳

令和5年度のへき地・小規模校教育に係る教員研修講座が、5月25日（木）に1回目を、5ヵ月の自己研修期間を設けて、12月7日（木）に2回目が行われ、私も北教大へき地・小規模校教育研究センター員として「教頭部会」の運営・進行・助言役として携わりました。

久しぶりの部会運営や慣れない遠隔型形式であるものの道内各地で奮闘されている教頭先生方と、へき地・小規模校における学校運営の難しさや人材育成の重要性等について、所定の時間で収まらない程、内容の濃く、そして深い協議をさせていただきました。

そこで、私事ではありますが、元道研職員として携わってきたことを振り返り、へき地・小規模校教育研修の重要性と、今後の継続的な研修の必要性について、皆さん方と共有することができればと思います。



1. これまで関わってきた「へき地・複式教育研修講座」への思い

私が道研職員（企画研修部長）として、本研修講座の企画等の業務に携わった平成26年は、当時の道へき複研究連盟会長の柿崎先生と連携しながら、「学習指導（授業作り）」を中心とした講座内容を企画し、定員20名程で開催したことが思い出されます。この当時、参加する先生方の現状は、初めて複式指導を経験する教員（若手からベテランまで）や、現任校での授業力を更に高めたい教員など、様々な自己課題を抱えている先生方でした。そこで、講座内容は、どこに視点を置いて企画することが満足度の高いものになるかと、担当所員と議論していました。今年の本研修講座を担当した所員の方も、頭を悩ませながら企画等してきたことが予想されます。研修終了後の振り返りや事業評価などに目を通すと、研修内容に係る評価もあるのですが、それよりも同じ研修に参加した先生方の横のつながりができたことが大変、有意義だとの声を数多く目にしました。このことから、内容の深まり（縦系）と先生方同士のつながり（横系）で織りなすことで、北海道のへき地教育の改善・充実が保たれていると痛感したところです。

また、令和2年に所長として、コロナ禍においても「道研」という教員研修機関の役割を意識して、へき地・複式教育に係る研修講座を継続的に取り組むことで、へき地・小規模校に勤務する先生方の不安感や期待感を受け止め、授業力向上に係る支援につながるものと感じていました。

その他に、道へき複教育研究連名の先生方と連携することは、広大な北海道の隅々の学校をつなげ、必要な情報を提供することができ、学習指導面で困り感を抱えている先生方一人一人の課題解決に結びつく教員研修体系になっていると思います。

このことから、是非 本研修が、更に先生方（管理職を含めて）の研修ニーズを踏まえた講座として継続的に提供していただくことを願います。

2. 教員養成の学部生との関りから考えること

私が担当する授業の一つに「学校臨床研究」があります。この授業は、教育実習に行った学部3年生の後期必修授業になり、各自が持っている学習指導に係る課題等を現職の先生が提供していただく授業を観察し、その中で解決する視点や手立てなどを探っていく内容になっています。

今年度は、七飯町立峠下小学校から複式指導の授業をライブ配信していただき、履修学生がリアルな授業を観察して、授業力向上につながる手立てなどについて協議しました。初めて複式指導の授業を観察する学生がほとんどでしたが、指導された先生の児童一人一人に応じた丁寧さや、間接指導の時の児童の主体的な活動の姿などを観て、授業者が大切にしている指導のポイントなどを一緒に考え、学修することができました。

このように、複式指導の基本的な指導方法や、学級経営の大切さなどを実感することで、今後求められる教育の姿などを、今回の指導された先生の姿を見て感じ取ることができるものであり、このような実践力のある指導者の育成も本研修講座を継続することで、より充実していくものと考えます。

3.今後のへき地・小規模校教育研修につなげていくこと

終わりになりますが、今回の研修講座に参加された先生方から、目の前にいる児童一人一人の学びを支援するためにどのような手立てが必要なのか、ICT機器等も活用し、学びの深まりや広まりをどのように取り組んでいけばよいのか等、常に子供に寄り添った授業改善について協議されたと受け止めています。その取組が、複式指導だけではなく、基本的な学習指導の更なる改善につながるものと考えます。

次年度以降も、道研一道へき複教育研究連盟－北教大の連携の下、研修講座が取り組まれていることを期待したいと思います。

令和6年1月20日(土) 第23回へき地・小規模校教育推進フォーラム
「どうしたらいい？へき地・小規模校の体育の教材・教具」
を開催します！

「3人でネット型のゲーム？どんな教材で指導したらいいの？」など、へき地小規模校の体育授業は、その人数の少なさから生じる独自の課題を抱えています。

そこで本フォーラムでは、大学の研究者、へき地小規模校で様々な教材・教具の開発に取り組まれている教員、教材・教具開発の専門家が一堂に会し、少人数学級向けの教材やアイデアを共有するパネルディスカッションを行います。

へき地小規模校に勤務する先生方をはじめ、多くの先生方にぜひご参加いただきたいと思いますと考えております。



詳細は次ページを
ご確認ください



日時：令和6年1月20日（土）13：30～15：30
場所：北海道教育大学旭川校 L301教室・オンライン
〒070-8621 北海道旭川市北門町9丁目
（JR旭川駅よりバスで約20分）

<https://www.hokkyodai.ac.jp/index.html>

※オンライン参加者にはメールでzoomのURLをお知らせします。

主催：北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター
共催：全国へき地教育研究連盟、北海道へき地・複式教育研究連盟
後援：文部科学省、北海道教育委員会、旭川市教育委員会

◇ プログラム

- 13：30 開会挨拶 玉井 康之
（北海道教育大学副学長・へき地小規模校教育研究センター長）
13：40 パネルディスカッション
①「少人数の良さを生かした体育の授業実践事例」
吉峯 真太郎 氏（鹿児島県奄美市立手花部小学校・教諭）
14：00 ②「小規模小学校の教具を活用した運動の場づくり」
深井 幸恵 氏（増毛町立増毛小学校・教諭）
14：20 ③「へき地小規模校の体育における遠隔授業の可能性」
中島 寿宏 氏（北海道教育大学札幌校・教授）
14：40 ④「ボール運動領域における教材・教具の開発」
竹内 隆司 氏（東海学院大学・講師）
15：00 討議 「これからのへき地・小規模校における体育授業の在り方」
参加者からの質疑応答
15：30 閉 会
※司会：高瀬 淳也（北海道教育大学旭川校・教授）

- ◇ 参加費：無料
◇ 定 員：会場での対面参加 100名・オンライン参加 150名
◇ 申 込：事前登録が必要（2024年1月15日（月）までに申込）
以下のURLもしくは右のQRコードより登録してください。
<https://forms.gle/2vr5cZ4vheqantaNu5>

